

土肥でアカモクの試験養殖

近年、西伊豆地域ではテングサやヒジキの生育が低調で漁獲量が減少傾向にあることから、伊豆漁協土肥支所（伊豆市）は静岡市の加工業者「おいしい産業株式会社」と協力してアカモクの試験養殖を開始しました。アカモクは全長が数メートルまで生長する大型の褐藻です。フコイダンという粘質物中の食物繊維や、フコキサンチンという色素を含んでおり、これが花粉症に効くなどとして一時ブームとなりました。おいしい産業株式会社によると、現在もアカモクの需要は高いとのことです。

令和3年1月に「フィッシングパーク土肥（土肥支所が運営する海上釣り堀）」近傍に10メートルの養殖ロープを張り、20cm間隔で1か所当たり50個体のアカモク種苗を付け、3か月後の4月15日に収穫作業を行いました。養殖期間中は特に大きなトラブルも無く、アカモクは1か所当たり3～4mと十分に生長し、合計約60kgが収穫できました。これらはおいしい産業株式会社が買い取り、加工されます。

今回の試験養殖では、おいしい産業株式会社が生産した種苗を使用しましたが、今後は土肥支所自ら種苗を生産し、それを使ってアカモクを養殖する体制作りを進めるとのことです。

（鈴木勇己）



写真1 試験養殖の様子



写真1 アカモクを収穫する様子